

令和8年(2026年)1月1日発行

2026年 年頭の辞

実工学新時代を迎えて



学長 竹内 貞雄

2026年の幕開けにあたり、学生の皆さん、教職員の皆様、そして本学を支えてくださるすべての関係者の方々にお祝い申し上げます。昨年は、社会の変化が一層加速する中で、本学も教育・研究・地域貢献の面で大きな挑戦を続けてまいりました。特に、次代に向けた教育改革の礎となる共通教育科目における再編成の検討、中国やグローバルサウスを意識した国際連携の推進、埼玉県及び近隣自治体を中心とした地域社会との協働など、未来に向けた基盤づくりが着実に進んだ一年でした。これらの取り組みは、皆様の努力と協力によって実現したものであり、改めて深く感謝いたします。本年は、さらに飛躍の年にしたい

と考えています。データサイエンスの深化、グローバル化の進展など、私たちが取り巻く環境は大きく変わり続けています。特に、AI技術の急速な発展により、何かを「つくる」ことは飛躍的に簡単になりました。プログラミング未経験者でも便利なアプリをつくれる時代の到来です。そのような時代を生き抜くにはどのような力が必要となるでしょうか。私はAI技術との共存社会に求められるのは「価値判断を伴う意思決定ができる力」や、AIのアウトプットを「評価できる力」だと考えます。そのためには、形ある「実物」に実際に触れることが重要で、人々は自らの価値観をより高めることが求められることになるでしょう。

つまり、AI時代こそ「実工学の意義」が再評価されると確信しています。本学は「実工学」という理念のもと、教育の質を高め、研究の成果を社会に還元し、地域と世界をつなぐ役割を果たしてまいります。学生の皆さんには、失敗を恐れず挑戦する心を持ち続けて欲しいと思います。そして、形ある「実物」に触れることで、AI時代を生き抜く心眼を身につけて欲しいと願っています。本学は教職員一丸となって未来を切り拓く教育・研究に努めてまいります。皆様にとって、健康で美しい一年となりますことを心よりお祈り申し上げます。

テクノロジーを見つめる



理事長 柳澤 章

2026年を迎えました。今世紀も、はや第2四半世紀に入ったということですね。かつて、1999年から2000年になろうとしていた年の暮れ、コンピュータシステムが00年を1900と読み間違えて世界が大混乱に陥るのではという懸念が世界を覆いました。幸い、杞憂に終わり、新年を迎えました。

それを四半世紀が過ぎた今日、科学技術の進歩とともにコンピュータシステムへの懸念は解消したかといえ、残念ながらそうとはいえません。産業と暮らしの隅々に浸透し、効率化とともにリスクをばらばら中、テクノロジーを探究する私たちが、どのような姿勢で向き合うべきであるのか、今年もまた、考え続け

るのを止めるわけにはいきません。調査によれば、AIを相談相手として筆頭に挙げる人も少なくなく、その人の内面に入り込んで依存を深めてしまう例も報告されています。デジタル・デバイスが脳に与える影響は精神科医アンデシュ・ハンセンの著書が世界的ベストセラーになりました。ある人が井の頭線の明大前駅のホームで駒場東大前駅への行き方を複数の若者に聞いたところ、誰もがスマホを取り出しました。聞いた人は感謝しつつも、通学で乗り慣れているのにスマホに頼らないと頭の中は渋谷までの路線図が描かれていないのか不思議に思えたのでした。人は、文字を手に入れたとき、そ



先行して大教室に改修された1-304教室

大学設立60周年に向けたリノベーション事業 本館講義棟を再生し 教育手法の多様化に対応 本学は2027年に設立60周年を迎える。これを契機として、日本工業大学リノベーション事業「NITILネサンス」変わる教育・変わらない理念」を推進する。教育研究組織の適正化に資する施設整備に加え、高校生や保護者、学校関係者に大学の魅力を訴求できる教育環境の創出を目指す。併せて主体的・自律的・協働的な学びを促す空間や、豊かな学生生活を支える「居心地の良いキャンパス」の実現も重要な柱と考えている。現在、従前の講義型授業に加え、アクティブラーニングや課題解決型学習などの対面型グループワーク、オンデマンド授業など性質の異なる教育手法が求められる時代になってきた。本事業では、それぞれの教育効果を最大限に引き出すための学修環境を整備する。具体的には、開学以来の本学のシンボル「本館講義棟」に新たな息吹を吹き込む。ライブ配信可能な講義録画・配信システムの導入、大人数から少人数グループワークまで柔軟に対応できる教室環境の再構築など、本館講義棟全体を新しい学びの形に合わせて再生する。教室機能だけでなく、オンデマンド授業の受講や小グループでの議論等に適した個人学修スペースや学生サロンの整備を進める。本館改修は夏期・春休業中に限定し、今後3年にわたり段階的に進めていく予定である。

日本工業大学 学部 2026年度入試日程

Table with columns for exam type (e.g., 総合型選抜, 一般選抜), application period, exam date, and venue. Includes details for various departments and international students.

入試チェックポイント ①入試奨学金20万円給付！充実の奨学金制度。昨年度実績808名！ ②同時出願あり！共通テスト利用は複数学科・コースに出願しても入学検定料が一律1.5万円！ ③試験会場は全国8カ所 地元で受験できます！ ④他大学と併願受験しやすい早期試験日程！試験科目は「数学」「英語」「理科(物理または化学)または「国語」の3教科！

本学で先端技術研究の取り組みを！

大学院生募集 (日本工業大学大学院 一般入学試験・社会人特別選抜) 大学院工学研究科 博士前期課程・博士後期課程 \*環境共生システム学専攻 \*機械システム工学専攻 \*電子情報メディア工学専攻 \*建築デザイン学専攻

日本工業大学 専門職大学院(大学院技術経営研究科技術経営専攻) 中小企業経営コース/事業創造コース/中小企業診断コース

働きながら学べる専門職大学院 第22期生 募集! 2026年度 専門職大学院 入試日程 Table with columns for application period, exam date, and enrollment date.

# ホームカミングデー

10月25日、本学主催、工友会協賛の第22回ホームカミングデーがダイニングホール（学生食堂）において開催された。

今回は卒業生204名、現職・退職教職員38名、その他同伴者などを含め291名が参加した。参加者は恒例の集合写真撮影の後、会食を楽しみながら恩師や旧友と旧交を温め、最後に全員で校歌を合唱した。



参加者全員で校歌を合唱



ホームカミングデー

## 学生自治会中央執行委員長 就任挨拶

### 実りある学生自治会を目指して

建築学部建築学科建築コース3年  
（栃木県立栃木翔南高等学校卒業）

松本 諒穂



新年あけましておめでとございます。皆様方におかれましては、つつがなく新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

この度、第58期中央執行委員長に就任いたしました松本諒穂と申します。長い歴史を持つ学生自治会の代表に就くことになり、非常に光栄であると同時に、身が引き締まる思いでございます。これまで私を支えてくださった皆様方に

は心より御礼申し上げます。今後は学生自治会の代表として、先代から引き継いだ学生自治会を、より盛んで有意義なものにできるよう、微力ながら精進してまいります。

中央執行委員会は今後の学生自治会をより盛んで実りある場所にするために、皆様のご意見ご要望に耳を傾け、学生の考えに心をこめ、同時に、他大学の良いところを吸収するなどして、さらなる発展に努力してまいります。

最後に申し上げますが、日本工業大学と学生自治会の一層の繁栄を祈念し、中央執行委員長の就任の挨拶とさせていただきます。

## 教職員として活躍中の卒業生が集う交流会

卒業教職員の集い連絡協議会の主催で11月22日、5号館で「卒業教職員の集い」が開催された。今年も対面とオンラインのハイブリッド形式で、全国から参加があった。

冒頭、永野祥夫委員長代理が「大学の思い出に触れ、卒業生同士の絆を深めたい」と挨拶した。講演では、有限会社クボタ代表取締役で博士（工学）の窪田博年氏が、大学院修了後の歩みや経営者としての経験を踏まえ「社会に出てから次世代に伝えたいこと」を語り、参加者は熱心に耳を傾けていた。講演後は、



窪田氏による講演

人材育成について活発な意見交換が行われた。閉会後には交流会が開かれ、同日開催の「教員採用試験合格者体験発表会」に参加した学生と合わせて交流が進み、世代を超えたつながりが広がった。大学と同窓会の絆を深める有意義な催しとなった。

## 小学生と保護者対象の科学系イベント

栃木市の小学生を対象とした毎年恒例の体験イベント。今年は10月25日、児童20名と保護者が来学し、ものづくり体験、施設見学などを通して科学への理解を深めた。

ものづくり体験「二足歩行ロボットを作ろう」はロボティクス学科の中里教授、山縣准教授、同科の学生が指導にあたった。児童たちはロボットの歩行メカニズムについて講義を受けたあと、親子で製作キットを組み立て、完成したロボットを実際に動かして歩行の仕組みを理解した。山縣准教授は南極観測隊の体験

を語り、児童たちは興味深く耳を傾けていた。工業技術博物館では工作機械などを見学し、蒸気機関車や箱根登山鉄道車両の乗車を体験した。参加者からは「親子共同で作業できたことは貴重な体験だった」「南極の話が面白かった」といった感想が聞かれた。

を語り、児童たちは興味深く耳を傾けていた。工業技術博物館では工作機械などを見学し、蒸気機関車や箱根登山鉄道車両の乗車を体験した。参加者からは「親子共同で作業できたことは貴重な体験だった」「南極の話が面白かった」といった感想が聞かれた。



キット製作時には学生がサポート

## 女子学生応援プロジェクト

より快適なキャンパスライフの実現を目指して

メイク講座の様子

本学の女子学生たちが学内環境改善と交流促進に取り組んでいる。学食メニューの考案や貸出用ブランケットの設置、トレーニングルームの環境改善、資生堂講師による就活メイク講座開催のほか、オープンキャンパスではパネルディスカッションで女子高生と保護者に対して活動内容を紹介した。これらの取り組みが評価され、本年の「Brilliant Student賞」を受賞した（4面）。



学食メニュー考案を担当した学生

## 今年のヒット曲は 何を語るか

大学院技術経営研究科・准教授 小林 克

新年を迎えるこの時期、テレビやラジオ等を通じて、昨年に流行した曲を耳にする機会が多くあります。昔から「歌は世につれ、世は歌につれ」といわれるように、その時代に親しまれた歌には、当時の社会や人々の価値観が映し出されています。普段何気なく聴いている曲でも、歌詞に注目してみると、使われている言葉から時代の空気が感じられます。

博報堂生活総合研究所が、昭和から令和までのオリコン年間シングルランキング上位100曲の歌詞を分析したレポートによれば、各年代の価値観の変化が言葉づかいに表れていることが分かります。例えば2000年代には、「明日」「空」といった名詞や、「信じる」「変わる」といった動詞が多く登場し、ITバブルの崩壊やリーマン・ショックといった不透明な時代背景の中でも、未来への期待や希望を込めた表現が目立つとされています。一方で2020年代に入ると、「日々」「幸せ」「あふれる」など、より身近な日常を捉えた言葉が増え、生活の基盤を大

新しい一年が始まりました。今年流行する曲の言葉選びや、そこに描かれる価値観にもぜひ目を向けてみてください。何気なく聴く歌にも、その時代ならではの表情があります。今年はそんな言葉に耳を澄ませながら、音楽を楽しんでみてはいかがでしょうか。

## 第57回若杉祭 テーマ「獅子奮迅」

10月25日・26日、第57回若杉祭（大学祭）が埼玉キャンパスにおいて開催された。

今年のテーマは「獅子奮迅」。「若杉祭開催へ向け、大学祭実行委員会が獅子奮迅する勢いそのままだと、ご来場の皆様と一緒に盛大な若杉祭を創り上げたい」との思いが込められている。

毎年恒例「秋のからっ風こんさあと」や、各団体工夫を凝らした模擬店が出店され、学内外問わず多くの参加者で賑わった。両日合わせ、約3000名の来場者数を記録し、本学最大の学生行事に相応しい盛り上がりとなった。



各団体がイベントを開催



学生サークルの模擬店

## 体育祭・e-sports大会

11月1日・2日に体育祭が開催された。

1日目は雨天のため、急遽体育館に開催場所を変更し、リレー・綱引きなど全4種目のスポーツ競技を実施。2日目はマリオカートなど全2種目の「e-sports大会」が、5号館各教室にて実施された。

課外活動団体を中心に、両日合わせて160名程度の学生が参加し、スポーツマンシップに則った競技を心掛け、体育館や教室で、歓声を響かせる熱戦を繰り広げた。

体育祭に参加した多くの学生が、充実した時間を過ごし、参加者同士の交流を深めた。



体育館で実施された玉入れ競技



e-sports大会

専門職大学院  
**オープンキャンパス**  
1/31 (土) 13:00-15:15

大学院紹介、模擬授業、パネルディスカッションなど  
※予定変更となる場合があります。最新情報はウェブサイトでご確認ください  
TEL. 03-3511-7591 mot@kanda.nit.ac.jp

NIT Open Campus  
**3/22 SUNDAY**  
大学・学科紹介  
キャンパス案内  
研究室紹介  
ランチ体験  
個別進学相談  
詳細はこちら

# ビジネスプランコンテスト

## 時代を反映し、AIを活用するプランに学長賞

10月27日、第20回ビジネスプランコンテストが学友会館ホールで開催され、全236件の中からファイナリストに選ばれた9名がプレゼンテーションを行った。情報メディア工学科3年柿沢圭吾さんの「学生によるAIエバンジェリスト」が、学長賞（グランプリ）と観客投票で選ばれるオーディエンス賞をダブル受賞した。受賞ス

ピーチで柿沢さんは「これまでたくさんの方々からご協力いただいたからこそ、今日受賞できた」と感謝を述べた。本年度で20周年を迎え、応募プラン数は累計4000件を超えた本学ビジコン。在学中に事業化に挑戦するプランも現れ、今後も発展が期待される。



学長賞を受賞した柿沢さん（左）

柿沢さんのプレゼンテーション

セミファイナリストのポスター展示

賞	氏名（代表）	プラン名
学長賞	柿沢 圭吾	学生によるAIエバンジェリスト
NITEC埼玉産学交流会賞	関口 空透	学生産業サポーターズ
川口信用金庫賞	戸張 真吾	広告や思い出に QRシャッター
宮代町長賞	廣瀬 一機	AiZ ～AIによる行政情報/サービス提供システム～
杉戸町長賞	永山 鈴華	みやぞきスキルリンク
イノベーション・起業教育センター長賞	加来 安東	プログラミング初心者学生向けハッカソンプロデュース
審査員特別賞	伊東 孝祐	学生×シニア「おたがいさま」シェア
優秀賞	癸生川真輝	学生によるお困りごと解決サービス×訪問販売
優秀賞	グエン バンナム	ティチャサボ

観覧者による投票結果で決定する「オーディエンス賞」には、柿沢 圭吾さんの「学生によるAIエバンジェリスト」が選ばれました。



土砂埋没救助訓練



浸水域救助訓練

## 大規模な風水害時の救助訓練に協力

埼玉県土砂・風水害機 動支援部隊の合同訓練が 10月9日、10日、埼玉キ ャンパス西端の多目的運動 場周辺において実施さ れた。同部隊は大規模な 土砂災害や風水害時にお ける救助体制の強化を目 的として創設され、埼玉 県では2019年より運 用が開始されている。

本訓練の実施は今回で 6回目。複数消防本部で 構成される同部隊が一堂 に会し、救助手法等の認 識の統一を図り、来る災 害に万全を期す ことを目的とし ている。本学は 埼玉東部消防組 合から今回初め て依頼を受け、 訓練会場の貸与 という形で協力 した。主な訓練 内容は次の通 り。

- 部隊終結訓練  
被災地派遣前に各部隊の 掌握が目的
- 土砂埋没救助訓練  
避難中に災害に巻き込ま れた車両の救出
- 浸水域救助訓練  
浸水域で発生したエリ アでの救出
- デコンタミネーション 訓練  
災害現場において汚れ た資機材や隊員を一時的 に洗浄・除染する訓練に はさいたま市消防局、上 尾市消防本部、深谷市消 防本部、埼玉東部消防組 合消防局の隊員が参加。 実際に活動にあたる隊員 のほか、見学として多数 の関係者が訪れ、訓練を 見守った。

## 工業技術博物館

### 海上保安庁次長が来学 灯台関連機器など見学

11月10日、海上保安庁 の坂巻次長以下6名の一 行が埼玉キャンパスを訪 問した。本学は昨年3 月、同庁海上保安試験研 究センターで長年にわた り試験研究に使用されて いた回転装置付レンズ、 不動レンズ、LED灯器 など多数の灯台関連機器 を譲り受けて以来、同庁 との交流を深めている。 一行は最初に工業技術 博物館を訪れ、清水館長 の説明を聞きながら復元



レンズの展示コーナーを見学する坂巻次長（右）



（左より）竹内学長、坂巻次長、柳澤理事長

力を得る装置もあり、坂 巻次長は自らクランクを 回して分銅を巻き上げ、 その仕組みを体験した。 続いて一行は柳澤理事 長、竹内学長を表敬訪問 した。坂巻次長は機器類 の引き受けと展示につい て「譲渡前には機器類を 一般に披露する機会は稀 であったが、今は広い展 示場で1年中人々の目に 触れることになり、大変

ありがたいと思ってい る」と謝辞を述べた。こ れに対し竹内学長は「歴 史的、技術的に価値があ る貴重な機器を譲渡して いただき感謝している。 本学の資産として大切に 保存し、多くの人に魅力 を伝えていくこともに、 教育などにも活用してい きたい」と述べた。



当日は学生の参 加も多く、来場者 は総計78名にの ぼった。講演会終 了後は懇親会が開 催された。産学の 参加者は特別展、 特別講演会の感想 など話しながら、 お互いに交流 を深めた。

最後に一行は就職支援 課を訪問し、本学学生の 採用に関して意見交換を 行った。昨年夏に実施さ れた同庁の職場見学会に は本学から 3名の学生 が参加した という実績 もあり、今 後も積極的に 学生に周 知広報して いきたいと の意向で あった。

工業技術博物館では、 本年度特別展「英国公共 用蒸気鉄道開業200年 と日本の鉄道近代化の歴 史」を、11月3日から3 月31日まで開催してい る。本特別展のオープニ ング的な位置づけにある 特別講演会「日本の鉄道 を支えた人々と技術」 が、11月6日に本学LC センターマルチメディア 教室にて開催された。

開会にあたり、花木義 麿博物館後援会会長（元 オークマ㈱代表取締役会 長）、柳澤章本学理事長 より挨拶があった。続け て清水伸二館長がオンラ インで「本特別展の開催 趣旨と概要」と題して、 本展の見どころを紹介し

特別講演は最初に、サ レジオ工業高等専門学校 客員教授の堤 一郎氏が 「日本の鉄道建設と車両 製造に尽力した鉄道技術 者たち」と題し、初期の 鉄道建設や車両製造、そ れを支えた外国人技術 者、日本人指導者と、彼 らの教育を受けたその後 活

躍した日本人技術者たち の足跡を、豊富な事例と ともに興味深いエピソードで語った。

次いで、元ブータン王 立大学契約教授・緒方正 則氏が「鉄道ゲージの起 原と変遷―古代遺跡調査 から現代の線路幅を考え る―」と題して、世界各 地で実際に調査された結 果や文献調査の成果を総 合し、鉄道ゲージの起原 に迫った、興味深いテー マで講演を行っ た。

当日は学生の参 加も多く、来場者 は総計78名にの ぼった。講演会終 了後は懇親会が開 催された。産学の 参加者は特別展、 特別講演会の感想 など話しながら、 お互いに交流 を深めた。

## SDGs QUEST

### みらい甲子園 ゴールドパートナーとして 埼玉県の高校生を応援



昨年の表彰式

本イベントは高校生た ちがチームを組み、SD Gsの目標達成に向けた アクションアイデアを企 画し、提案するコンテ ストである。新学習指導要 領に記載されている 「持続可能な社 会の担い手」育成 のためSDGsを 起点とした社会課 題解決に向けた行 動を促す機会の創 発を目指す。

今年度は全国25エリア で開催されることが決定 している。高校生ならで はの斬新でユニークなア イデアが生まれることが 期待されている。

1万1041名が参加し た。このうち埼玉大会で は155チーム、633名が参加した。本学は2 023年度から埼玉県大 会のゴールドパートナ ーとして協賛しており、3 月に開催予定の最終審査 では日本工業大学賞も授 与される。昨年度は県立 浦和第一女子高校「食 材、ゲットだぜ!」チー ムの「パットとゲットで繋 がる子ども食堂」地域の 企業×子ども食堂」に本 賞が贈られた。

SDGs for Engineersはバイオ 燃料、「マイクロプラスチックの 水草での回収」をメインテーマと する研究内容をパネルで展示した。 ものづくり団体「NGEプロジェ クト」は自作UFOキャッチャーの 実演を行った。景品のノベルティ グッズも自作で、特に子供たちに 大変好評であった。

## 国内最大級の環境展示会に出展

12月10日から3日間、東京ビッグ サイトで開催されたエコプロ 2025に本学から3団体が出展。い ずれも学生が企画、運営を担った。

学生環境推進委員会はリユース傘、地域復興支援など本年の活動実績をパネルで紹介。エコグッズを景品としたガチャガチャも設置し、注目を集めていた。

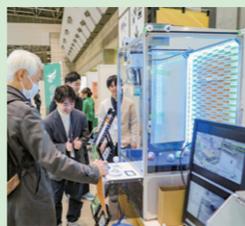
SDGs for Engineersはバイオ 燃料、「マイクロプラスチックの 水草での回収」をメインテーマと する研究内容をパネルで展示した。 ものづくり団体「NGEプロジェ クト」は自作UFOキャッチャーの 実演を行った。景品のノベルティ グッズも自作で、特に子供たちに 大変好評であった。



環境推進委員会



SDGs for Engineers



NGEプロジェクト

### 国際教育プログラム SP!ED2025で受賞



(左より) 李さん、伊藤さん

国際教育プログラム SP!ED2025が8月18日から8日間、中国・江蘇大学で開催された。本学電子情報メディア工

るための賢いアイデアとして最も高い評価を受けた。伊藤さんらのチームは「ペットの散歩サポーターセンサー」を開発し

### 電子情報通信学会 最優秀ポスター賞

SP!EDは、モノづくりのアイデアや国際共同開発におけるコミュニケーション能力、技術力などの諸能力を伸ばし、グローバルな視点を持つエンジニアの育成を目的に開催されている。今年

9月1日に開催された電子情報通信学会第6回コミュニケーションオリ

の応用が期待されている。吉岡さんの研究「ドローン受粉におけるナビ

### MIKA2025 最優秀ポスター賞

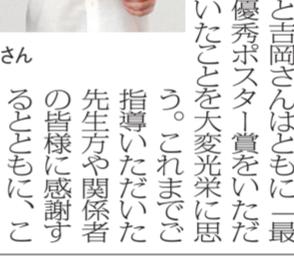


(左より) 吉岡さん、青山さん

電子情報メディア工学 研究会 MIKA2025 専攻博士前期課程1年

「はじめての研究会講演優秀賞」を受賞した。受賞講演名は「都市部ラストマイル配送計画問題に

### 電子情報通信学会 講演優秀賞



(左より) 吉岡さん、青山さん

電子情報メディア工学 専攻修士前期課程2年 (伊藤研究室)の渋谷陸斗さんが10月10日、電子情報通信学会ネットワー

「はじめての研究会講演優秀賞」を受賞した。受賞講演名は「都市部ラストマイル配送計画問題に

### 日本経営実務研究学会 学術貢献賞

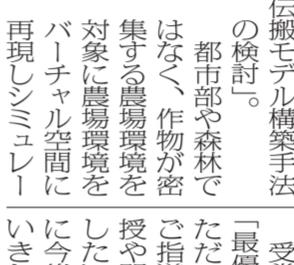


(左より) 吉岡さん、青山さん

電子情報メディア工学 専攻修士前期課程2年 (伊藤研究室)の渋谷陸斗さんが10月10日、電子情報通信学会ネットワー

「はじめての研究会講演優秀賞」を受賞した。受賞講演名は「都市部ラストマイル配送計画問題に

### 電子情報通信学会 功労顕彰

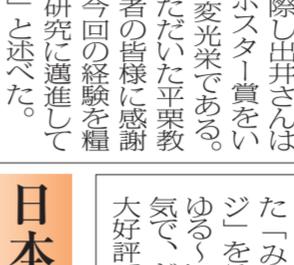


(左より) 吉岡さん、青山さん

電子情報メディア工学 専攻修士前期課程2年 (伊藤研究室)の渋谷陸斗さんが10月10日、電子情報通信学会ネットワー

「はじめての研究会講演優秀賞」を受賞した。受賞講演名は「都市部ラストマイル配送計画問題に

### 電子情報通信学会 功労顕彰



(左より) 吉岡さん、青山さん

電子情報メディア工学 専攻修士前期課程2年 (伊藤研究室)の渋谷陸斗さんが10月10日、電子情報通信学会ネットワー

「はじめての研究会講演優秀賞」を受賞した。受賞講演名は「都市部ラストマイル配送計画問題に

### 電子・情報・システム部門大会企画賞



(左より) 吉岡さん、青山さん

8月28日、金沢工業大 電子・情報・システム部門大会にて、情報メディア

電子情報通信学会第6回コミュニケーションオリ

の応用が期待されている。吉岡さんの研究「ドローン受粉におけるナビ

電子情報メディア工学 専攻修士前期課程2年 (伊藤研究室)の渋谷陸斗さんが10月10日、電子情報通信学会ネットワー

「はじめての研究会講演優秀賞」を受賞した。受賞講演名は「都市部ラストマイル配送計画問題に

電子情報メディア工学 専攻修士前期課程2年 (伊藤研究室)の渋谷陸斗さんが10月10日、電子情報通信学会ネットワー

「はじめての研究会講演優秀賞」を受賞した。受賞講演名は「都市部ラストマイル配送計画問題に

電子情報メディア工学 専攻修士前期課程2年 (伊藤研究室)の渋谷陸斗さんが10月10日、電子情報通信学会ネットワー

「はじめての研究会講演優秀賞」を受賞した。受賞講演名は「都市部ラストマイル配送計画問題に

電子情報メディア工学 専攻修士前期課程2年 (伊藤研究室)の渋谷陸斗さんが10月10日、電子情報通信学会ネットワー

### 学生表彰イベントを開催 Brilliant Student賞／読書チャレンジ

Brilliant Student賞は学生の課外活動や社会貢献の実績を評価する。「女子学生応援プロジェクト」(2面に関連記事)、工業技術博物館のSLの持続化に貢献した竹島駿さん(電気電子通信工学科4年)が受賞した。

読書チャレンジは読書への興味喚起を目的とした。LCセンター(図書館)主催の感想文コンテスト。前回同様、SF作家星新一氏の短編小説を指定書籍とし、関連書籍と併せた選書と併せて感想文を募集した。



【上】左より：竹島駿さん、女子プロ(山中麻椰さん、伊藤天音さん、杉山日向子さん、伊藤綾花さん)

【右】前列左より：優秀賞の日向野慎也さん、渡邊夕貴さん、田中一葉さん 中列左より：佳作の白木里実さん、上岡俊介さん、森家隆斗さん、作間朋輝さん

LCセンター(図書館)主催の感想文コンテスト。前回同様、SF作家星新一氏の短編小説を指定書籍とし、関連書籍と併せて感想文を募集した。

LCセンター(図書館)主催の感想文コンテスト。前回同様、SF作家星新一氏の短編小説を指定書籍とし、関連書籍と併せて感想文を募集した。

平栗教授は同学会コミュニケーションシンクオリティ研究専門委員会委員長として2年間、研究領域の発展と学会活性化に大きく貢献。平栗教授は「通信品質の研究は次世代ネットワークやスマート社会の基盤を支える重要な分野。活動をサポートした委員の尽力に感謝し、今後も学術と社会の双方に貢献していきたい」とコメントしている。

平栗教授は同学会コミュニケーションシンクオリティ研究専門委員会委員長として2年間、研究領域の発展と学会活性化に大きく貢献。平栗教授は「通信品質の研究は次世代ネットワークやスマート社会の基盤を支える重要な分野。活動をサポートした委員の尽力に感謝し、今後も学術と社会の双方に貢献していきたい」とコメントしている。

平栗教授は同学会コミュニケーションシンクオリティ研究専門委員会委員長として2年間、研究領域の発展と学会活性化に大きく貢献。平栗教授は「通信品質の研究は次世代ネットワークやスマート社会の基盤を支える重要な分野。活動をサポートした委員の尽力に感謝し、今後も学術と社会の双方に貢献していきたい」とコメントしている。

平栗教授は同学会コミュニケーションシンクオリティ研究専門委員会委員長として2年間、研究領域の発展と学会活性化に大きく貢献。平栗教授は「通信品質の研究は次世代ネットワークやスマート社会の基盤を支える重要な分野。活動をサポートした委員の尽力に感謝し、今後も学術と社会の双方に貢献していきたい」とコメントしている。

平栗教授は同学会コミュニケーションシンクオリティ研究専門委員会委員長として2年間、研究領域の発展と学会活性化に大きく貢献。平栗教授は「通信品質の研究は次世代ネットワークやスマート社会の基盤を支える重要な分野。活動をサポートした委員の尽力に感謝し、今後も学術と社会の双方に貢献していきたい」とコメントしている。

平栗教授は同学会コミュニケーションシンクオリティ研究専門委員会委員長として2年間、研究領域の発展と学会活性化に大きく貢献。平栗教授は「通信品質の研究は次世代ネットワークやスマート社会の基盤を支える重要な分野。活動をサポートした委員の尽力に感謝し、今後も学術と社会の双方に貢献していきたい」とコメントしている。

平栗教授は同学会コミュニケーションシンクオリティ研究専門委員会委員長として2年間、研究領域の発展と学会活性化に大きく貢献。平栗教授は「通信品質の研究は次世代ネットワークやスマート社会の基盤を支える重要な分野。活動をサポートした委員の尽力に感謝し、今後も学術と社会の双方に貢献していきたい」とコメントしている。

平栗教授は同学会コミュニケーションシンクオリティ研究専門委員会委員長として2年間、研究領域の発展と学会活性化に大きく貢献。平栗教授は「通信品質の研究は次世代ネットワークやスマート社会の基盤を支える重要な分野。活動をサポートした委員の尽力に感謝し、今後も学術と社会の双方に貢献していきたい」とコメントしている。

### CNCマシンの開発、起業を通して技術者としての成長を実感

ロボティクス学科4年 岩崎 創詞さん

高校時代からロボット製作に没頭し、4足歩行ロボット製作などの実績が入試で評価され入学を決めた。入学後、ロボット製作プロジェクトに参加し、3年次にNHKロボコンへの出場を果たす。このとき、電子回路や部品の加工に使用したCNCマシン(※)の切削粉飛散や不具合に悩まされた経験から、そうした不満を解消するマシンの開発を決意。ものづくり団体「NGEプロジェクト」の活動の中で試作機を製作し、オープンキャンパスでの展示や来場者からの助言を通じて改良を重ねた。

こうして完全防塵、高剛性、高速加工をすべて満たす理想のマシン「Boxion-2015」が完成。「場所を選ばず、誰でも安心して切削加工の楽しさを感じてほしい」との思いから2024年1月に事業を立ち上げ、自らマシンの販売を始めた。12月現在、順調に受注を重ねており、その他にも多くの問い合わせを受けている。

今回の開発、起業を通じて「お客様目線でニーズを把握し、それに寄り添った設計をすることの難しさを痛感した。そうした経験を重ねていくことで技術者として成長できた」と実感している。卒業後は大学院に進学。切削加工研究と事業運営を両立しながら製品の改良や新製品開発に励む。



岩崎さんとBoxion-2015

※コンピュータ制御によって自動で金属等の素材を削る加工機

岩崎さんとBoxion-2015

### 町代町の魅力を身につけよう! みやしろ缶バッジ

町代町の魅力を身につけよう! みやしろ缶バッジ